

●エコプラザの基本理念（周辺協議会の考え方）

ごみから考える

「低炭素社会の実現に向けたモデル地域としての取り組み」実現のため
エコプラザはエコセンターと共に3つのテーマを展開する

- ・低炭素社会モデルの実現
エコロジーや省エネルギーによる低炭素モデルエリアを構築する
- ・“地域力”の向上
学習、雇用、産業、集いなどの機能を導入し、地域の活力の更なる向上に役立てる。
- ・まちづくりとの連携
さまざまな上位計画や整備事業と連動し、よりよいまちづくりに貢献する。

「何のために」・・・施設の設置目的

⇒基本理念の実現に向けて、具体的な取り組みを進めるための施設

具体的な取り組みに必要な視点

- ・ライフスタイルを変える
 - ①共感性がなければ人間の行動は変わらない → 学び合う場と仕組みが重要。
 - ②気づき、学び、コミュニケーションに重点を。
- ・ごみ減量につなげる
 - ①廃棄物は資源である。
 - ②ごみ減量化を促してCO2削減、低炭素社会につなげる。
 - ③ごみを減らすようなライフスタイルに変えていくきっかけ（気づき・学び）をつくる。
 - ④ごみ問題に全く興味がない人にも目を向けてもらえるようにする。

「誰に対して」・・・エコプラザの取り組みの対象

- 【対象】広く全市民
 - 子供への教育は重要（大人にも影響を与える）。生活に関心の高い主婦層へ働きかけ。
 - ごみ問題に興味のない人を呼び込む工夫（イベントやワークショップなど）

「何をするか」・・・エコプラザに必要な機能

- 環境啓発機能
 - エコセンターに集まるごみから社会を見直し、地球を感じ、低炭素化に向けた行動を促す。
 - 取り組み全てが環境啓発機能を有する（低炭素社会の実現に向けた行動を促し、その行動を持続させる）。
- リユース・リサイクル（アップサイクル）機能
 - 啓発につながる手法でのリペア工房などの導入。
 - アーティスト・クリエイターと連携し、ごみから新たな価値をつくりだす再生ものづくり機能。
 - 高齢者など地域の人材が持つ技能や経験を活用すべき。
- 交流・ネットワーク・情報発信機能
 - 市内で活動している人々のネットワークの核に（地域力を結ぶ核）。
 - エコやリサイクルの様々な相談に対応、新たなライフスタイルや市民活動の支援。

「どのように」・・・運営のあり方

- 全ての市民が利用でき、市民のしたいことをサポートできる運営。
- 人材育成やネットワーク、地域力向上を重視した運営。

低炭素社会の実現



●広範な環境啓発機能

- 【背景】
環境への関心の高まり
○地球温暖化の影響とみられる異常気象・自然災害の多発など。
 - 環境部の創設**
○環境の重要性を踏まえ、第五期長期計画からは「緑・環境」分野を独立。
○環境部を創設し、ごみ、エネルギー、緑、水循環などの環境全般について、包括的・一括的に担任。
 - 【効果】
集客、新たな層への関心の拡大
○啓発の間口を広げることで、より多くの方が来館する。
○ごみ以外の環境に関心を持って来館した方が、ごみの問題にも気づき、関心を持つ。
 - 理解・行動の促進**
○日常生活と多様な環境とのつながりを知り、理解が深まることで、行動へと結びつく。
 - 交流・連携の推進**
○市民や多様な環境団体、企業・事業者などがお互いの活動を知り、交流・連携を図る。
○多様な環境啓発を行う新クリーンセンターと、ハード・ソフトの両面で連携する。
- ↓ さらに・・・
- ライフスタイルの変革**
○日々の暮らしや価値観などを見直すきっかけになる。
 - 施設・地域の活性化**
○市民や企業、大学など、様々な民の力が発揮できる。
○幅広い層の市民が参加・参画できる。

●エコプラザの機能

【学び・気づき、交流・ネットワーク・情報発信、リユース・リサイクル（アップサイクル）】

●エコプラザの運営

【空間スペース、ごみからの素材を活用し、地域と連携できる運営】

●エコプラザの空間配置

【限られたスペースをどう活用するか】

【基本理念】
どんな考えに基づき施設か？

【設置目的】
何のための施設か？

【事業内容】
誰に対して何を
する施設か？